

| | | | | | | | |
|--------------|-----|-------------------------------|-------|-----------|--|-----|--|
| 令和6年度 年間授業計画 | | | | 科目の 目標 | 社会で生活するのに必要な国語の知識や技能を身につけ、深く共感したり豊かに想像する力を伸ばして、自らを向上させ、言葉を通して他者や社会に積極的に関わろうとする態度を養う。 | 教科書 | 新編文学国語（大修館） |
| 教科 | 国語 | 科目名 | 文学国語 | | | 副教材 | 新訂 国語図説 六訂版（啓隆社） 体系古典文法（数研出版） 大学入試国語頻出問題 1200 四訂版（啓隆社） 高校生必修語彙ノート 三訂版（桐原書店） |
| 単位数 | 2単位 | 区分 | 自由選択 | | | | |
| 年次 | 3年次 | 形態 | クラス単位 | | | | |
| 担当者名 | | 1組：西山 2組：西山 3組：西山 4組：塩原 5組：塩原 | | | | | |

| | | | |
|----------|---|---------------------------------------|-------------|
| 授業 内容 | 1 学期 | 2 学期 | 3 学期 |
| | 「飛ぶことを知っている魂」 梨木香歩 「桐壺」「若紫」（源氏物語） 「おぼろ月」 藤沢周平 | 「こころ」 夏目漱石 「四面楚歌」 史記 「山椒魚」 井伏鱒二 | 「離さない」 川上弘美 |
| 授業時数 | 25 | 30 | 15 |

| 観点別評価 | 観点 | A | B | C | 評価方法 |
|---------------|--|--|----------------------------------|-----------------------------------|-------------------------|
| 知識・技能 | 言葉ひとつひとつに真摯に向き合っていく態度と、そこから書き表されていることを正しくつかんでいく能力を高めていく。 | 漢字の読みや語句の意味を文章内容に即して理解できる。 | 漢字の読みや語句の意味を正しく理解している。 | 漢字の読みや語句の意味を確かめる。 | 定期考査 授業中の小テスト 提出物 |
| 思考・判断・表現 | 文章に書き表されていることについて考え、自分なりに意見をまとめ、それを自ら表すことのできる能力と姿勢を高める。 | 文章に書き表されていることの理解を踏まえて、そこにつながるまで思考していくことができる。 | 文章にどういったことが書き表されているのかを正しく理解している。 | 文章に書かれていることに関心を持たず、その内容を考えようとしない。 | 定期考査 授業中の小テスト 提出物 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 文章に意欲的に向き合い、そこに窺われる課題を、自ら考えていこうという態度を育てる。 | 文章についての課題を自ら見つけ、その意味合いを主体的に考え、自らの問題につなげられる。 | 文章に主体的に向き合い、その内容を意欲的に理解している。 | 文章に対して真摯に向き合うことができない。 | 定期考査 授業中の小テスト 提出物 |

| | | | | | | | |
|--------------|-----|----------------------------|-------|-----------|--|-----|--|
| 令和6年度 年間授業計画 | | | | 科目の 目標 | ○言語表現に沿って他者の考えを理解する力を育成する ○多様な論点や価値観に触れ、新たな視点から自己の考えを深める ○的確で多様な自己表現が可能となるように語彙を獲得し、豊かな言語活動を育成する | 教科書 | 新編論理国語（東京書籍） |
| 教科 | 国語 | 科目名 | 論理国語 | | | 副教材 | 新訂 国語図説 六訂版（啓隆社） 大学入試国語頻出問題 1200 四訂版（啓隆社） 高校生必修語彙ノート 三訂版（桐原書店） |
| 単位数 | 2単位 | 区分 | 必履修 | | | | |
| 年次 | 3年次 | 形態 | クラス単位 | | | | |
| 担当者名 | | 1組：秦 2組：秦 3組：秦 4組：西山 5組：西山 | | | | | |

| | 1 学期 | 2 学期 | 3 学期 |
|----------|---|--|--------------------|
| 授業 内容 | 「最初のペンギン」 茂木健一郎 「カフェの開店準備」 小池昌代 「鏡としてのアンドロイド」 石黒浩 「言葉は『ものの名前』ではない」 内田樹 | 「科学的『発見』とは」 小川真理子 「知識における作者性と構造的性」 吉見俊哉 「もう一つの知性」 姜尚中 「ホンモノのおカネの作り方」 岩井克人 | 「言葉の扉④ 的確に表現するために」 |
| 授業時数 | 25 | 30 | 15 |

| 観点別評価 | 観点 | A | B | C | 評価方法 |
|---------------|--|--|--|---|-------------------------|
| 知識・技能 | 実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。 | 文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について十分理解できている。 | 文章の効果的な組み立て方や接続の仕方についておおむね理解できている。 | 文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解できていない。 | 定期考査 授業中の小テスト 提出物 |
| 思考・判断・表現 | 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を高め、自分の思いや考えを深める。 | 文章の内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら、要旨を十分に把握することができている。 | 文章の内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら、要旨をおおむね把握することができている。 | 文章の内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら、要旨を把握することができていない。 | 定期考査 授業中の小テスト 提出物 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 | 多面的、多角的な視点から自分の考えを見直し、根拠や論拠の吟味を重ねて自分の主張を明確にすることが十分できている。 | 多面的、多角的な視点から自分の考えを見直し、根拠や論拠の吟味を重ねて自分の主張を明確にすることがおおむねできている。 | 多面的、多角的な視点から自分の考えを見直し、根拠や論拠の吟味を重ねて自分の主張を明確にすることができていない。 | 定期考査 授業中の小テスト 提出物 |

| | | | | | | | |
|--------------|-------------------------------|-----|-------|-----------|---|-----|------------------|
| 令和7年度 年間授業計画 | | | | 科目の 目標 | 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて、客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識のある公民として必要な能力と態度を育てる。 | 教科書 | 最新政治・経済(実教出版) |
| 教科 | 公民 | 科目名 | 政治経済 | | | 副教材 | 政治経済資料2025(とうほう) |
| 単位数 | 2単位 | 区分 | 必履修 | | | | |
| 年次 | 3年次 | 形態 | クラス単位 | | | | |
| 担当者名 | 1組：佐藤 2組：千葉 3組：千葉 4組：佐藤 5組：佐藤 | | | | | | |

| 授業 内容 | 1 学期 | 2 学期 | 3 学期 |
|----------|---|--|--|
| | 第2編第1章①企業の役割 ②国民所得 ③経済成長と国民の福祉 ④金融の役割 ⑤日本銀行の役割 ⑥財政の役割と租税 ⑦日本の財政の課題 第2章 ①戦後復興から高度経済成長へ ②安定成長からバブル経済へ ③日本経済の課題 | 第2章 ④中小企業と農業 ⑤消費者問題 ⑥公害防止と環境保全 ⑦労働問題と労働者の権利 ⑧こんにちの労働問題 ⑨社会保障の役割 第3章 ①貿易と国際収支 ②外国為替市場のしくみ ③第二次世界大戦後の国際経済 ④国際経済の動向 ⑤発展途上国の諸問題 ⑥経済協力と日本の役割 | 第3編 ①地球環境問題 ②資源・エネルギー問題 ③人種・民族問題 |
| 授業時数 | 23 | 26 | 3 |

| 観点別評価 | 観点 | A | B | C | 評価方法 |
|---------------|--|--|---|--|-------------------------|
| 知識・技能 | 現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。また、諸資料を様々なメディアを通して、収集し、必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 | 現代社会にかかわる諸課題に関して、学んだ内容を十分に理解し、知識をもとに課題解決する力が十分に付いた。 | 現代社会にかかわる諸課題に関して、学んだ内容を理解し、知識をもとに課題解決する力が付いた。 | 現代社会にかかわる諸課題に関して、学んだ内容の理解と課題解決する力が身につけていない。 | 定期考査 授業中の小テスト 提出物 |
| 思考・判断・表現 | 現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見出し、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ、公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する力を養う。 | 現代社会にかかわる諸課題に関して、身に付けた知識をもとに、課題解決に向けて構想し、考察した結果を説明・議論する力が十分に付いた。 | 現代社会にかかわる諸課題に関して、身に付けた知識をもとに、課題解決に向けて構想し、考察した結果を説明・議論する力が身に付いた。 | 現代社会にかかわる諸課題に関して、身に付けた知識をもとに、課題解決に向けて構想し、考察した結果を説明・議論する力が身につけていない。 | 定期考査 授業中の小テスト 提出物 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。そして、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。 | 現代社会にかかわる諸事象と諸課題を学び、活用することにより、日本国民としての自覚を十分に深め、人としての在り方生き方を深めようとすることの大切を十分に自覚している。 | 現代社会にかかわる諸事象と諸課題を学ぶことにより、人としての生き方を深めようとするものの大切を自覚している。 | 現代社会にかかわる諸事象と現代的な諸課題の学びが不十分で、日本国民としての自覚と、人としての在り方生き方を深めようとするものの大切を自覚ができていない。 | 定期考査 授業中の小テスト 提出物 |

| | | | | | | | |
|--------------|-----|-------|------|-----------|--|-----|----------------|
| 令和7年度 年間授業計画 | | | | 科目の 目標 | 極限、微分法及び積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 | 教科書 | 高等学校 数学Ⅲ(数研出版) |
| 教科 | 数学 | 科目名 | 数学Ⅲ | | | 副教材 | なし |
| 単位数 | 4単位 | 区分 | 自由選択 | | | | |
| 学年 | 3学年 | 形態 | 自由選択 | | | | |
| 担当者名 | | 明石 直諭 | | | | | |

| 授業 内容 | 1 学期 | | 2 学期 | | 3 学期 | |
|----------|------|--|---|---|---|---|
| | | 第1章 関数 1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数 第2章 極限 第1節 数列の極限 1. 数列の極限 2. 無限等比数列 3. 無限級数 第2節 関数の極限 4. 関数の極限(1) 5. 関数の極限(2) 6. 三角関数の極限 7. 関数の連続性 | 第3章 微分法 第1節 導関数 1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算 第2節 いろいろな関数の導関数 3. いろいろな関数の導関数 4. 第n次導関数 5. 曲線の方程式と導関数 | 第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 1. 接線の方程式 2. 平均値の定理 3. 関数の値の変化 4. 関数のグラフ 第2節 いろいろな応用 5. 方程式、不等式への応用 6. 速度と加速度 7. 近似式 第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分 1. 不定積分とその基本性質 2. 置換積分法と部分積分法 | 3. いろいろな関数の不定積分 第2節 定積分 4. 定積分とその基本性質 5. 置換積分法と部分積分法 6. 定積分のいろいろな問題 | 第3節 積分法の応用 7. 面積 8. 体積 9. 道のり 10. 曲線の長さ |
| 授業時数 | 50 | | 70 | | 20 | |

| 観点別評価 | 観点 | A | B | C | 評価方法 |
|---------------|---|--|---|---|-------------------------|
| 知識・技能 | 極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 | 授業で得た知識を十分理解しており、数学的に表現・処理したりする技能を十分に身に付けている。 | 授業で得た知識をほぼ理解しており、数学的に表現・処理したりする技能をほぼ身に付けている。 | 授業で得た知識の理解が不十分で、数学的に表現・処理したりする技能を十分に身に付けていない。 | 定期考査 授業中の小テスト 提出物 |
| 思考・判断・表現 | 数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って総合的・発見的に考察したりする力を養う。 | 授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。 | 授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。 | 授業や課題を通して学んだことを思考判断する力が不十分で、表現することに努力を要する。 | 定期考査 授業中の小テスト 提出物 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論議に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 | 主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。 | 主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。 | 主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。 | 定期考査 授業中の小テスト 提出物 |

| | | | | | | | |
|--------------|-----|-----|------|-----------|--|-----|------------------|
| 令和7年度 年間授業計画 | | | | 科目の 目標 | 数列、統計的な推測、数学と社会生活について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 | 教科書 | 高等学校 数学II (数研出版) |
| 教科 | 数学 | 科目名 | 数学C | | | 副教材 | なし |
| 単位数 | 2単位 | 区分 | 必履修 | | | | |
| 学年 | 3学年 | 形態 | 自由選択 | | | | |
| 担当者名 | | 宮崎 | | | | | |

| 授業内容 | 1 学期 | 2 学期 | 3 学期 |
|------|--|--|---|
| | <p>第1章 平面上のベクトル</p> <p>第1節 ベクトルとその演算</p> <p>1. ベクトル</p> <p>2. ベクトルの演算</p> <p>3. ベクトルの成分</p> <p>4. ベクトルの内積・コラム研究 三角形の面積</p> <p>第2節 ベクトルと平面図形</p> <p>5. 位置ベクトル</p> <p>6. ベクトルの図形への応用</p> <p>7. 図形のベクトルによる表示研究 点と直線の距離</p> | <p>第2章 空間のベクトル</p> <p>1. 空間の点</p> <p>2. 空間のベクトル</p> <p>3. ベクトルの成分</p> <p>4. ベクトルの内積</p> <p>5. ベクトルの図形への応用</p> <p>6. 座標空間における図形・コラム発展 平面の方程式</p> <p>第3章 複素数平面</p> <p>1. 複素数平面・コラム</p> <p>2. 複素数の極形式</p> <p>3. ド・モアブルの定理</p> <p>4. 複素数と図形研究 $3\cos(\alpha)$, $8(\beta)$, $C(\gamma)$を頂点とする $\triangle ABC$</p> | <p>第4章 式と曲線</p> <p>第1節 2次曲線</p> <p>1. 放物線</p> <p>2. 楕円</p> <p>3. 双曲線研究 直角双曲線$xy=1$</p> <p>4. 2次曲線の平行移動</p> <p>5. 2次曲線と直線研究 2次曲線の接線の方程式</p> <p>6. 2次曲線の性質</p> <p>7. 曲線の接点研究 いろいろな曲線の接線の方程式研究 各軌跡による円の複素数表示</p> <p>8. 極座標と極方程式研究 2次曲線を表す極方程式</p> <p>9. コンピュータの利用</p> |
| 授業時数 | 25 | 30 | 15 |

| 観点別評価 | 観点 | A | B | C | 評価方法 |
|---------------|--|--|---|---|-------------------------|
| 知識・技能 | 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 | 授業で得た知識を十分理解しており、数学的に表現・処理したりする技能を十分に身に付けている。 | 授業で得た知識をほぼ理解しており、数学的に表現・処理したりする技能をほぼ身に付けている。 | 授業で得た知識の理解が不十分で、数学的に表現・処理したりする技能を十分に身に付けられていない。 | 定期考査 授業中の小テスト 提出物 |
| 思考・判断・表現 | 目的に応じて適切に変形したりする力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、数関係に着目し、考察し判断したりする力を養う。 | 授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。 | 授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。 | 授業や課題を通して学んだことを思考判断する力が不十分で、表現することに努力を要する。 | 定期考査 授業中の小テスト 提出物 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論理に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 | 主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。 | 主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。 | 主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。 | 定期考査 授業中の小テスト 提出物 |

| | | | | | | | |
|--------------|-----|-------------------------------|--------|-----------|---|-----|-------------|
| 令和7年度 年間授業計画 | | | | 科目の 目標 | 学習の目標 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 | 教科書 | i版生物基礎 |
| 教科 | 理科 | 科目名 | 生物基礎演習 | | | 副教材 | セミナー生物基礎 |
| 単位数 | 2単位 | 区分 | 自由選択 | | | | ニューステージ生物図表 |
| 年次 | 3年次 | 形態 | 自由選択 | | | | |
| 担当者名 | | 1組：石原 2組：石原 3組：石原 4組：石原 5組：石原 | | | | | |

| 授業内容 | 1 学期 | | 2 学期 | | 3 学期 | | |
|------|------|--|--|--|--|---|--|
| | | 1章 生物の特徴 1 生物の多様性 2 生物の共通性 3 生物の進化と系統 4 細胞と個体の成り立ち 5 真核細胞の構造 6 原核細胞の構造 7 生命活動とエネルギー 8 ATPの構造 9 生体内の化学反応と酵素 10 光合成と呼吸 | 2章 遺伝子とその働き 1 生物と遺伝情報 2 DNAの構造と遺伝情報 3 DNA複製 4 DNAと染色体 5 細胞周期とDNAの分配 6 細胞周期とDNA量の変化 7 遺伝子発現とタンパク質 8 転写と翻訳 9 遺伝暗号表 10 遺伝子発現と維持 3章 神経系と内分泌系 1 恒常性と体液 2 血液凝固と線溶 3 恒常性に関わる神経系 4 自律神経系と脳死 | 3章 神経系と内分泌系 5 ホルモンによる調節 6 ホルモン分泌の調節 7 血糖濃度の変化と糖尿病 8 血糖濃度の調節の仕組み 9 体温と水分量の調整 4章 免疫 1 生体防御の概要 2 異物の侵入を阻止する仕組み 3 自然免疫の仕組み 4 獲得免疫の概要 5 細胞性免疫と体液性免疫 6 抗体とその利用 7 免疫記憶とその利用 8 免疫と病気 | 5章 植生と遷移 1 環境と生物 2 光の強さと植物 3 森林の階層構造と土壌 4 遷移の過程 5 遷移に伴う環境の変化 6 遷移と世界のバイオーム 7 日本のバイオーム | 6章 生態系とその保全 1 生態系における生物の役割 2 種多様性と食物連鎖 3 生態系と生態ピラミッド 4 キーストーン種と絶滅 5 生態系のバランスと変動 6 人間環境と生態系 7 生物濃縮 8 外来生物 9 生物多様性と生態系の保全 10 生態系と人間生活 | |
| 授業時数 | 25 | | 35 | | 10 | | |

| 観点別評価 | 観点 | A | B | C | 評価方法 |
|---------------|--|--|--|---|-------------------------|
| 知識・技能 | 生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。 | 生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を十分に理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が十分に身に付いている。 | 生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。 | 生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解が不十分であり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能の習得が不十分である。 | 定期考査 授業中の小テスト 提出物 |
| 思考・判断・表現 | 自然の事物・現象の中に問題を見だし、見直しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。 | 探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が十分に習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が十分に育まれている。 | 探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。 | 探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法の習得が不十分である。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力の育成が不十分である。 | 定期考査 授業中の小テスト 提出物 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 | 生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が十分に養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が十分に養われている。 | 生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。 | 生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が不十分である。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が不十分である。 | 定期考査 授業中の小テスト 提出物 |

| | | | | | | | |
|--------------|------|--|-------|-----------|--|-----|----------|
| 令和7年度 年間授業計画 | | | | 科目の 目標 | 体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | 教科書 | 現代高等保健体育 |
| 教科 | 保健体育 | 科目名 | 体育3 | | | 副教材 | なし |
| 単位数 | 3単位 | 区分 | 必履修 | | | | |
| 年次 | 3年次 | 形態 | クラス単位 | | | | |
| 担当者名 | | 1組：谷口、廣瀬 2組：谷口、廣瀬 3組：谷口、廣瀬 4組：谷口、廣瀬、大森 5組：谷口、廣瀬、大森 | | | | | |

| 授業 内容 | 1 学期 | 2 学期 | 3 学期 |
|----------|--|---|---|
| | A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に生かす運動の計画 C 陸上競技 ア 短距離走 イ 長距離走 E 球技 ア ゴール型 ウ ベースボール型 G ダンス ウ 現代的なリズムのダンス H 体育理論 (1) スポーツの文化的特徴や現代のスポーツの発展 | A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に生かす運動の計画 E 球技 ア ゴール型 イ ネット型 ウ ベースボール型 G ダンス ウ 現代的なリズムのダンス H 体育理論 (2) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方 | A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に生かす運動の計画 E 球技 ア ゴール型 イ ネット型 H 体育理論 (1) 豊かなスポーツライフの設計の仕方 |
| 授業時数 | 35 | 45 | 25 |

| 観点別評価 | 観点 | A | B | C | 評価方法 |
|---------------|---|--|---|---|----------------------------|
| 知識・技能 | 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 | 運動の多様性や体力の必要性について理解しており、それらの技能を十分に身に付けている。 | 運動の多様性や体力の必要性についてほぼ理解しており、それらの技能をほぼ身に付けている。 | 運動の多様性や体力の必要性について理解が不十分で、それらの技能の習得が不十分である。 | 実技テスト 授業への取り組み 学習カード |
| 思考・判断・表現 | 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 | 授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。 | 授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。 | 授業や課題を通して学んだことを思考判断をする力が不十分で、表現することに努力を要する。 | 実技テスト 授業への取り組み 学習カード |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。 | 主体的・意欲的に体育に取り組む態度と生涯にわたって継続して運動に親しむ態度が十分にある。 | 主体的・意欲的に体育に取り組む態度と生涯にわたって継続して運動に親しむ態度がある。 | 主体的・意欲的に体育に取り組む態度と生涯にわたって継続して運動に親しむ態度が不十分である。 | 授業への取り組み 学習カード 出席状況 |

| | | | | | | | |
|--------------|-----|-----|------|-----------|---|-----|-----------------|
| 令和7年度 年間授業計画 | | | | 科目の 目標 | 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。 | 教科書 | 大学ピアノ教本 音楽通論 |
| 教科 | 音楽 | 科目名 | 保育音楽 | | | 副教材 | |
| 単位数 | 2単位 | 区分 | 自由選択 | | | | |
| 年次 | 3年次 | 形態 | 自由選択 | | | | |
| 担当者名 | | 今村 | | | | | |

| | | | | | | |
|----------|---|--|--|--|--------------------------------|--|
| 授業 内容 | 1 学期 | | 2 学期 | | 3 学期 | |
| | ○歌唱 ・基本的な歌唱の姿勢、呼吸、発声法 ・合唱曲 ・童謡 ○器楽 ・基礎的なピアノの奏法 ・弾き歌い ・ミュージックベル | ○創作 ・手作り楽器 ・イメージを音で表現する ○楽典・ソルフェージュ ・楽譜の構造 ・音名、音部記号 ・音価 ・リズム・聴音 | ○歌唱 ・基本的な歌唱の姿勢、呼吸、発声法 ・合唱曲 ・童謡 ・曲想と歌詞の内容との関わり ○楽典・ソルフェージュ ・変化記号、調号や臨時記号 ・反復記号 ・楽譜の書き方 ・リズム・聴音 | ○創作 ・絵本に効果音をつける ・イメージを音で表現する ○器楽 ・基礎的なピアノの奏法 ・弾き歌い ・ミュージックベル | ○受験に向けた個別対策 ○1, 2学期のまとめ | |
| 授業時数 | 24 | | 28 | | 18 | |

| 観点別評価 | 観点 | A | B | C | 評価方法 |
|---------------|---|---|---|---|---|
| 知識・技能 | 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 | 授業で得た知識や技術について十分理解を深めており、適切に表現するために必要な技能を十分に身に付けている。 | 授業で得た知識や技術について理解しており、適切に表現するために必要な技能を概ね身に付けている。 | 授業で得た知識や技術の理解が不十分で、適切に表現したするために必要な技能を十分に身に付けられていない。 | 授業の様子・取り組み 授業内小テスト 実技テスト ワークシート等の提出物 |
| 思考・判断・表現 | 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 | 授業や課題を通して知覚・感受したことを思考し、正しく判断し、自分の思いや意図をもって創意工夫して表現することができる。 | 授業や課題を通して知覚・感受したことを思考し、判断し、自分の思いや意図をもって表現することができる。 | 授業や課題を通して知覚・感受したことを思考判断する力が不十分で、表現することに努力を要する。 | 授業の様子・取り組み 授業内小テスト 実技テスト ワークシート等の提出物 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。 | 主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。 | 主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。 | 主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。 | 授業の様子・取り組み 授業内小テスト 実技テスト ワークシート等の提出物 |

| | | | | | | | |
|--------------|-----|-----|------|-----------|---|-----|---------|
| 令和7年度 年間授業計画 | | | | 科目の 目標 | 書の表現について幅広く理解するとともに、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて表現を工夫することができるようにする。主体的に書字活動に取り組み、学習したことを生活に生かすとともに、生涯にわたり書を愛好する心情を育む。 | 教科書 | 高校硬筆の練習 |
| 教科 | 書道 | 科目名 | ペン習字 | | | 副教材 | |
| 単位数 | 2単位 | 区分 | 自由選択 | | | | |
| 年次 | 3年次 | 形態 | 自由選択 | | | | |
| 担当者名 | | 柳澤 | | | | | |

| 授業 内容 | 1 学期 | | 2 学期 | | 3 学期 | |
|----------|--|--|---|-------|--|-------|
| | ○楷書の基本点画 ・縦画・横画 ・折れ ・左払い・右払い・右上払い ・そり・曲がり ○字形の構成要素 ・概形・中心 ・画の長短・画間 ・画の方向 ・交わり方・接し方 ・部分の組み立て方（左右） ・部分の組み立て方（上下） ・部分の組み立て方（内外） | ○許容される書き方 ○平仮名・片仮名 ・仮名の成立と仮名の字形 ○文字の大きさと配置 ・漢字かな交じり文（縦書き・横書き） ・掲示物 ○小テスト | ○行書 ・行書の成立と行書の特徴 ・行書の書き方 ○行書に調和する平仮名 ○平仮名の連綿 ○行書の漢字かな交じり文 ・漢字かな交じり文（縦書き・横書き） ・手紙文の書き方 ・宛名書き | ○小テスト | ○草書 ・草書の偏と旁 ・草書で書くと似ている文字 ・草書の語句を書く ・草書を読む（検定問題） | ○小テスト |
| 授業時数 | 24 | | 28 | | 18 | |

| 観点別評価 | 観点 | A | B | C | 評価方法 |
|---------------|---|---|---|---|--|
| 知識・技能 | ①器具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ②墨体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 | 授業で得た知識や技術について十分理解を深めており、適切に表現するために必要な技能を十分に身に付けている。 | 授業で得た知識や技術について理解しており、適切に表現するために必要な技能を概ね身に付けている。 | 授業で得た知識や技術の理解が不十分で、適切に表現したするために必要な技能を十分に身に付けられていない。 | ・提出物と取り組みの過程 （ワークシート・プリント） ・小テスト |
| 思考・判断・表現 | ①用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫している。 ②意図に基づいた表現を工夫している。 ③墨のよさや美しさを味わって捉えることができている。 | 授業や課題を通して知覚・感受したことを思考し、正しく判断し、自分の思いや意図をもって創意工夫して表現することができる。 | 授業や課題を通して知覚・感受したことを思考し、判断し、自分の思いや意図をもって表現することができる。 | 授業や課題を通して知覚・感受したことを思考判断する力が不十分で、表現することに努力を要する。 | ・提出物と取り組みの過程 （ワークシート・プリント） ・小テスト |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 漢字・仮名の書に関心を持ち、主体的に漢字・仮名の書の用筆・運筆を身に付け、学習で得た知識・技能を積極的に日常生活に生かそうとしている。 | 主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。 | 主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。 | 主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。 | ・提出物と取り組みの過程 （ワークシート・プリント） |

| | | | | | | | |
|--------------|-----|---------------------|----------------|-----------|---|-----|------------------------------------|
| 令和7年度 年間授業計画 | | | | 科目の 目標 | 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションに応じて活用できる技能を身に付けるようにする。コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて的確に理解し適切に表現できる力を養う。主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 | 教科書 | Power On English Communication III |
| 教科 | 英語科 | 科目名 | 英語コミュニケーションIII | | | 副教材 | Power On WORKBOOK III |
| 単位数 | 4単位 | 区分 | 必履修 | | | | |
| 年次 | 3年次 | 形態 | クラス単位 | | | | |
| 担当者名 | | 1組： 2組： 3組： 4組： 5組： | | | | | |

| | | | | | | |
|----------|---|--|--|--|---|--|
| 授業 内容 | 1学期 | | 2学期 | | 3学期 | |
| | Lesson1 Library of the Future Lesson2 History Maker Otani Shohei Lesson3 Zoo Dentists: How They Work for Zoo Animals Lesson4 Nature Photographer in Alaska | | Lesson5 A science Award That Makes You Laugh, and Then Think Lesson6 Where Did Halloween Come From? Lesson7 Will 3D Printing Technology Change the World? Lesson8 A Conductor of the Underground Railroad | | Lesson9 English, Always Growing Lesson10 Understanding the Culture of Dogs | |
| 授業時数 | 50 | | 60 | | 30 | |

| 観点別評価 | 観点 | A (満足できる) | B (おおむね満足できる) | C (努力を要する) | 評価方法 |
|---------------|--|---|---|---|----------------------------|
| 知識・技能 | 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身につけている。 | [知識]外国語の文法の形・意味・用法を理解している。 [技能]文法の理解をもとに、日常的な話題や社会的な話題について、詳細に聞き取ったり、読みとる技能を身につけている。また自分の考えを理由や根拠とともに、詳しく話したり書いたりする技能を身につけている。 | [知識]外国語の文法の形・意味・用法をおおむね理解している。 [技能]文法の理解をもとに、日常的な話題や社会的な話題について、おおむね聞き取ったり、読みとる技能を身につけている。また自分の考えを理由や根拠とともに、おおむね話したり書いたりする技能を身につけている。 | [知識]外国語の文法の形・意味・用法の理解が不足している。 [技能]文法の理解をもとに、日常的な話題や社会的な話題について、聞き取ったり、読みとる技能が欠けている。また自分の考えを理由や根拠とともに、話したり書いたりする技能が不十分である。 | 定期考査 英作文 ワーク、提出物 |
| 思考・判断・表現 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝えあったりしている。 | 情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図、概要や要点、詳細を整理して把握している。また自分の考えを理由や根拠とともに論理性に注意して詳しく書いて伝えている。 | 情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図、概要や要点、詳細をおおむね整理して把握している。また自分の考えを理由や根拠とともに書いて伝えている。 | 情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図、概要や要点、詳細を整理して把握することに欠けている。また自分の考えを理由や根拠とともに書くことが不十分で、論理性に欠けている。 | 定期考査 英作文 ワーク、提出物 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 | 情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を聞いたり、読んだりして、書き手の意図、概要や要点、詳細を整理して把握しようとしている。 | 情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を聞いたり、読んだりして、書き手の意図、概要や要点、詳細をおおむね整理して把握しようとしている。 | 情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を聞いたり、読んだりして、書き手の意図、概要や要点、詳細を何とか整理して把握しようとしている。 | 定期考査 授業の取り組み ワーク、提出物 |

| | | | | | | |
|--------------|------|--------------------------|---------|-----------|-----|---------------------------------------|
| 令和7年度 年間授業計画 | | | | 科目の 目標 | 教科書 | MY WAY Logic and Expression II |
| 教科 | 英語科 | 科目名 | 論理表現 II | | 副教材 | MY WAY Logic and Expression II ワークブック |
| 単位数 | 2 単位 | 区分 | 必履修 | | | |
| 年次 | 3 年次 | 形態 | クラス単位 | | | |
| 担当者名 | | 1 組： 2 組： 3 組： 4 組： 5 組： | | | | |

| | | | |
|----------|--|---|--|
| 授業 内容 | 1 学期 | 2 学期 | 3 学期 |
| | PART 1 Building a Basis for Logical Expression Lesson 1 School Festival Lesson 2 A Trip to Spporo Lesson 3 My Dear Friend Lesson 4 A Dog in a Barbershop Further Activities 1 Lesson 5 Japanese Food | Lesspn6 Volunteer Activities Lesson7 A Stage Actor Lesson8 I Like Singing Further Activities 2 Lesson9 Cycling Lesson10 My New Hiking Boots Lesson 11 The Yangtze River | Part 2 Communicative Functions for Logical Expression Lesson1 What's Your Favorite Dish? Lesson2 Uniforms or Casual Clothes? |
| 授業時数 | 25 | 30 | 15 |

| 観点別評価 | 観点 | A (満足できる) | B (おおむね満足できる) | C (努力を要する) | 評価方法 |
|---------------|--|--|--|---|----------------------------|
| 知識・技能 | 論理表現の学習活動において、英語の文法を正しく使用し、なるべくたくさんの語句を用いて話を続けたり会話を続けようとしているか。 | 話の流れがよく、興味深い内容をしている。 理由や例示などの情報が、適切に述べられている。 文法の使い方が適切である。 | 話の流れが悪く、おおむね適切な内容を話している。 理由や例示などの情報が、おおむね適切に述べられている。 文法の使い方がおおむね適切であるが、少し誤りがある。 | 表現の使い方が不適切である。 理由や例示などの情報が、適切に述べられていない。 文法の使い方が不適切である。 | 定期考査 エッセイ ワーク、提出物 |
| 思考・判断・表現 | 論理表現の学習活動において、英語の表現を考え、適切な英語を選び、英文を作成し、話したり書いたり読んだりしているか。 | 誤りのない適切な表現が使われている。 聞き取りやすく正しい発音で読んでいる。 滑らかで、理解しやすい読み方である。 | おおむね誤りのない適切な表現が使われている。 おおむね聞き取りやすく正しい発音で読んでいる。(誤りなどが少しある) おおむね滞ることなく、理解可能な読み方である。 | 表現の使い方が不適切である。 発音の誤りなどが多く聞き取りにくい。 滞ることが多く、理解するのが困難な読み方である。 | 定期考査 エッセイ ワーク、提出物 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 論理表現の授業活動における活動において、相手に自分の事を伝えようとしている。また、学習活動に取り組んでいるかを判断する提出物を提出できるか。 | 聞き手を意識して、内容を明確に伝えようとしている。 レッスン毎のエッセイに、指定の語数を使用し作成しようとしている。 授業の内容をワークを利用して学習している。 | 聞き手を意識して、内容をおおむね明確に伝えようとしている。 レッスン毎のエッセイに、指定の語数をおおむね使用し作成しようとしている。 授業の内容をワークを利用しておおむね学習している。 | 聞き手を意識して、内容をおおむね明確に伝えようとしているが伝わらない。 レッスン毎のエッセイに、指定の語数に達せず作成している。 授業の内容をワークを利用して学習しているが抜けている箇所 | 定期考査 授業の取り組み ワーク、提出物 |

| | | | | | | | |
|--------------|-----|----------|---------|-----------|--|-----|------------|
| 令和7年度 年間授業計画 | | | | 科目の 目標 | 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。 | 教科書 | フードデザイン |
| 教科 | 家庭 | 科目名 | フードデザイン | | | 副教材 | 家庭科55デジタル+ |
| 単位数 | 2単位 | 区分 | 自由選択 | | | | |
| 年次 | 3年次 | 形態 | 自由選択 | | | | |
| 担当者名 | | 1組～5組：塔嵩 | | | | | |

| 授業 内容 | 1 学期 | | 2 学期 | | 3 学期 | |
|----------|---|--|--|--|--|--|
| | 第1章 健康と食生活 ①食事の意義と役割 ②食を取り巻く現状 第2章 栄養と食品 ①栄養素と消化・吸収 ②各栄養素のはたらき ③食品とその特徴 ④何をどれだけ食べる 調理実習 定期考査 | | 第3章 食品の選択と取り扱い ①食品選択のコツ ②食品の安全と衛生 ③食の安全を考えて選ぶ 第5章 各国料理とコーディネート ①料理の様式 ②テーブルコーディネート 調理実習 定期考査 | | 第6章 食育と食育推進活動 ①食育推進の取り組み ②食文化を見つめる ③食と環境について考えよう まとめ 調理実習 レポート | |
| 授業時数 | 23 | | 31 | | 16 | |

| 観点別評価 | 観点 | A | B | C | 評価方法 |
|---------------|---|--|---|---|-----------------------------|
| 知識・技能 | 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を体系的に理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。 | 授業で得た知識や技術を十分理解しており、適切に表現したり活用する技能を十分に身に付けている。 | 授業で得た知識や技術をほぼ理解しており、適切に表現したり活用する技能をほぼ身に付けている。 | 授業で得た知識や技術の理解が不十分で、適切に表現したり活用したりする技能を十分に身に付けられていない。 | 定期考査 提出物 実習記録 レポート |
| 思考・判断・表現 | 食生活の現状から食生活全般に関する課題を見直し思考を深め、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。 | 授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。 | 授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。 | 授業や課題を通して学んだことを思考判断する力が不十分で、表現することに努力を要する。 | 定期考査 提出物 実習記録 レポート |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 食生活に関する諸問題に関心をもち自ら学び、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする態度を身につけている。 | 主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。 | 主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。 | 主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。 | 定期考査 提出物 実習記録 レポート |

| | | | | | | | |
|--------------|-----|----------|------|-----------|--|-----|------------|
| 令和7年度 年間授業計画 | | | | 科目の 目標 | 家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。 | 教科書 | 保育基礎 |
| 教科 | 家庭 | 科目名 | 保育基礎 | | | 副教材 | 家庭科55デジタル+ |
| 単位数 | 2単位 | 区分 | 自由選択 | | | | |
| 年次 | 3年次 | 形態 | 自由選択 | | | | |
| 担当者名 | | 1組～5組：塔嶋 | | | | | |

| | 1 学期 | | 2 学期 | | 3 学期 | |
|----------|---|--|---|--|---|----|
| 授業 内容 | 1章 子どもの保育 ①保育の意義 ②保育の環境 ③保育の方法 | 3章 子どもの生活 ①子どもの健康と生活 ②子どもの食事 保育実習 定期考査 | 3章 子どもの生活 ③子どもの衣服と寝具 ④子どもの健康と安全 4章 子どもの福祉 ①保育にみる児童観 ②児童福祉の理念と法規・制度 | 5章 子どもの文化 ①子どもの文化の意義 ②子どもの文化を支える場 ③子どもと遊び 定期考査 | 5章 子どもの文化 ④子どもの表現活動 まとめ 保育の学習を振り返る | |
| | 授業時数 | 23 | | 31 | | 16 |

| 観点別評価 | 観点 | A | B | C | 評価方法 |
|---------------|---|--|---|---|-----------------------|
| 知識・技能 | 子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身につけている。 子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につけている。 | 授業で得た知識や技術を十分理解しており、適切に表現したり活用する技能を十分に身につけている。 | 授業で得た知識や技術をほぼ理解しており、適切に表現したり活用する技能をほぼ身につけている。 | 授業で得た知識や技術の理解が不十分で、適切に表現したり活用したりする技能を十分に身につけられていない。 | 定期考査 提出物 作品制作 |
| 思考・判断・表現 | 子どもを取り巻く課題を見つけ、保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫、表現をする力を身につけている。 | 授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。 | 授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。 | 授業や課題を通して学んだことを思考判断をする力が不十分で、表現することに努力を要する。 | 定期考査 提出物 実習レポート |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 子どもの発達や保育にかかわる職業について関心を持ち、地域の保育や子育て支援を通じて子どもの健やかな発達に寄与しようとする意欲的な態度を身につけている。 | 主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。 | 主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。 | 主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。 | 定期考査 提出物 レポート |

| | | | | | | | |
|--------------|-----|------|----------|-----------|--|-----|-------------------------------|
| 令和7年度 年間授業計画 | | | | 科目の 目標 | 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習を行うことなどを通して、情報産業の維持と発展を支える情報の表現と管理に必要な資質・能力を育成することを目指す。 | 教科書 | 実教出版 情報の表現と管理 |
| 教科 | 情報 | 科目名 | 情報の表現と管理 | | | 副教材 | 日本文教出版 各種検定対応 コンピュータ入力問題集 第4版 |
| 単位数 | 2単位 | 区分 | 自由選択 | | | | |
| 年次 | 3年次 | 形態 | 自由選択 | | | | |
| 担当者名 | | 新妻 聡 | | | | | |

| 授業 内容 | 1 学期 | | 2 学期 | | 3 学期 | |
|----------|---|---|---|---|---|--|
| | 1 メディアの特性とその表現 (1) 文字による表現 ・ドキュメントの意義 ・ドキュメントの構成 ・ビジネス文書の作成 ・表と図解の役割 (2) データの表現 ・表計算ソフトの活用 ・データサイエンス ・統計データの利用 (3) データ処理の自動化 ・プログラミングの活用 ・生成AIの活用 | ※(1)～(3)いずれも、生徒に目標を設定させ、実習内容を提案させ、学習をさせる。 | 1 メディアの特性とその表現 (1) 文字による表現 ・ドキュメントの意義 ・ドキュメントの構成 ・ビジネス文書の作成 ・表と図解の役割 (2) データの表現 ・表計算ソフトの活用 ・データサイエンス ・統計データの利用 (3) データ処理の自動化 ・プログラミングの活用 ・生成AIの活用 | 1 メディアの特性とその表現 (4) 音による発信 ・音声データの作成と編集 ・録音データの作成 (5) 画像による発信 ・画像データの加工 ・生成AIの活用 (6) メディアの統合 ・HTMLファイルの作成 ・静的ページの作成 ・動的ページの作成 ・データベース管理 | 1 メディアの特性とその表現 (4) 音による発信 ・音声データの作成と編集 ・録音データの作成 (5) 画像による発信 ・画像データの加工 ・生成AIの活用 (6) メディアの統合 ・HTMLファイルの作成 ・静的ページの作成 ・動的ページの作成 ・データベース管理 | 1 メディアの特性とその表現 (7) 情報の発信 ・プレゼンテーションデータの作成 ・プレゼンテーションの実施・振り返り・改善 |
| 授業時数 | 24 | | 30 | | 16 | |

| 観点別評価 | 観点 | A | B | C | 評価方法 |
|---------------|---|--|---|---|------|
| 知識・技能 | 情報の表現と管理について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 | 情報の表現と管理に関連された基礎的な技術を十分に身に着け、その技術を生かし、より高度な技術を習得した。 | 情報の表現と管理に関連された基礎的な技術を十分に身に着けている。 | 情報の表現と管理に関連された基礎的な技術を習得身に着けている。 | 提出物等 |
| 思考・判断・表現 | 情報の表現と管理に関する課題を発見し、情報産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 | 学習活動において課題解決を図る手順を理解し、解決する力を十分に身につけており、その手順を日常における問題解決に応用することができる。 | 学習活動において課題解決を図る手順を理解し、解決する力を身につけており、授業における他の課題解決に生かすことができる。 | 学習活動において課題解決を図る手順を理解しているが、他の課題に生かす点では不十分である。 | 提出物等 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 適切な情報の表現と管理を目指して自ら学び、情報産業の維持と発展に必要な情報の表現と管理に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 | 学習活動を通じて、情報の表現と管理に関する技術の習得に非常に主体的に取り組むとともに、課題解決の手順について、協働的に検討し、解決している。 | 学習活動を通じて、情報の表現と管理に関する技術の習得に主体的に取り組んだ。 | 情報の表現と管理に関する技術の習得に向けた姿勢が不十分であり、情報社会に参画する態度を身につけるため更なる研さんが必要である。 | 提出物等 |

東京都立高等学校 令和7年度（3学年用）教科 総合的な探究の時間 科目 総合的な探究の時間

教科： 総合的な探究の時間 科目： 総合的な探究の時間 単位数： 1 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 5 組

教科担当：各教員

使用教科書：（人間と社会 東京都教育委員会）

教科 総合的な探究の時間 の目標： 選択・行動に関する資質・能力を育成する学習、体験活動による学習を通してよりよい生き方の主体的な選択を育成することを目指す。

- 【知識及び技能】 価値の理解を深める学習、選択・行動に関する能力を育成する。
 【思考力、判断力、表現力等】 学習、体験活動などを通して、道徳を養い、形成した判断基準（価値観）を高める。
 【学びに向かう力、人間性等】 社会的現実と照らし、よりよい生き方を主体的に選択し、行動する能力を育成する。

科目 総合的な探究の時間 の目標： 選択・行動に関する資質・能力を育成する学習、体験活動による学習を通してよりよい生き方の主体的な選択を育成することを目指す。

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|---|----------------|----------------|
| ・様々な価値や考え方がありという多様性の理解や他者と協働することの意義の理解等。 ・他者と協働する技能等。 ・必要な情報の収集・整理・分析等。 ・一面的な考察から多面的・多角的考察への変化や自己の内面の変化から自己の行動の変化等。 ・自他の考え方や調べた知識等を他者に伝える力等。 ・社会の一員として主体的に関わろうとする姿勢等。 ・問いや課題を見つけ、学習に主体的に取り組むとする姿勢等。 | | |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 | |
|-------------|--|---|---|---|---|---|----------|---|
| 1 学 期 | 2学年「人間と社会」での探究活動から得られた「新たな問い」の振り返りから、2学年の探究テーマの決定、探究計画書の作成を行う。 | ・1学年「人間と社会」グローバルな視点からの探究の振り返り ・2学年の探究テーマ決定グローバルな視点→日本→東京→町田・山崎町へ視点を向ける ・探究計画書の作成「背景・目的・方法」 | 【知識・技能】 様々な価値や考え方がありという多様性の理解や他者と協働することの意義の理解等。 【思考・判断・表現】 一面的な考察から多面的・多角的考察への変化や自己の内面の変化から自己の行動の変化等。 【学びに向かう力、人間性等】 演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。 | | ○ | | 6 | |
| | ・探究計画書の外部評価員による評価 | ・「調べ学習だけになっていないか」 ⇒単に情報を集めてまとめるだけで、学習指導要領が求める「探究の過程」①課題設定→②情報収集→③整理・分析→④まとめ・表現)や、そこから自己の在り方・生き方を考えて行動につなげる態度が伴わない状態のことを指す。 | | | | ○ | | 2 |
| | ・探究まとめ発表 | ・探究計画書の発表 フィールドワーク・アンケートの作成 | | | | | ○ | |
| 2 学 期 | ・12月開催予定「パネル発表会」へ向けた発表準備を行う。 ・探究発表会で出た問いに関して、探究を深める。 ・探究結果をまとめる。 | ・探究計画書の結果とまとめ ・「パネル発表会」へ向けた発表準備とスライド作成 | 【知識・技能】 様々な価値や考え方がありという多様性の理解や他者と協働することの意義の理解等。 【思考・判断・表現】 一面的な考察から多面的・多角的考察への変化や自己の内面の変化から自己の行動の変化等。 【学びに向かう力、人間性等】 演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。 | | | ○ | 14 | |
| | ・パネル発表会、3年間の探究活動の振り返り | 3年間の探究活動のまとめをし、今後の生活で活かせるように指導する。 | | 【知識・技能】 様々な価値や考え方がありという多様性の理解や他者と協働することの意義の理解等。 【思考・判断・表現】 一面的な考察から多面的・多角的考察への変化や自己の内面の変化から自己の行動の変化等。 【学びに向かう力、人間性等】 演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。 | | | ○ | 9 |
| | | | | | | | 合計 | |
| | | | | | | | 35 | |